

NPO 法人 住まいのホームドクター／設計者
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル 3 階

HD ニュース
No. 76
2019. 9. 24

今後の予定／於：事務所会議室

10月3日(木)18:00～ 三役会
10月17日(木)18:00～ 相談委員会
10月17日(木)18:30～ 木造技術研究会
10月26日(土) 8:00～ 研修会(金山イオン前集合)
「輪中とその暮らしについて」千本松原・海津市ほか
11月7日(火)18:00～ 三役会

第 15 期通常総会を終え 新年度への抱負

理事長 滝井幹夫

第 15 期通常総会が 12 日に無事終了致しました。改めて皆様から寄せられたご協力に感謝を申し上げます。

今総会は役員改選が無い為、同じ役員体制で臨むこととなります。引き続きこの一年間宜しくお願いします。

本年の主要な活動を振り返り、次期への抱負、課題として捉えたいと思います。

第一は、本会は「住まいのホームドクター/設計者の会」の名称が表すように、住いに関わるあらゆる相談・調査・解決の為の手助けを誠実に行う専門家集団であると自負しています。今期の活動として、多くの会員に支えられて、平日の無料電話相談を毎年実施して来ましたが、相談件数が極めて少ない実態があります。相談窓口を知った内訳は、「本会ホームページ」「賛助会員から」に限られ、過去にあった「消費者センター」「行政窓口」「冊子—知って良かった住いの知識」からはゼロでした。情報が氾濫する中で、市民・消費者に向けての情報発信の改善を行い、相談を求める多くの方が早く本会へたどり着けるようにしたいものです。

第二の活動は、既存住宅状況調査です。「一般社団法人 住まい管理支援機構」と連携し取り組みを始めました。空き家を含む中古住宅の増大を背景に、その流通促進を目的として「宅建業法」の一部が改定されました。中古住宅の売買仲介時に顧客に対して「既存住宅状況調査」を希望するか否かの説明義務が課せられるようになった為、その依頼が当 NPO にあり、機構と連携する形で調査業務がスタートしました。この制度が中古住宅の流通促進に役立つことを否定しませんが、調査項目は限定的で構造体の安全性に踏み込まないなど十分では有りません。調査者の標準報酬も低く想定されています。本会は、以前から

実施していた建物調査を上記調査のオプション版「既存住宅一般調査」と位置づけて二つのメニューで対応することにしました。

第三は、「研修会」「木造技術研究会」の座学中心の勉強会を見直し、野外での見学会やドローン実演・調査事例見学などを併用する工夫がされました。内容により参加者が増えて高評価が寄せられました。引き続き工夫が大切でしょう。

課題としては、会員現勢・会の運営についてです。新入会員を上回る退会者があり、微減状態が続いています。

さて、この一年間、いろんな場面で話題にし、特に総会準備の中で議論して来た事は、①本会の存在、活動内容を如何にして市民・消費者に知って貰えるように出来るか。②谷川照雄さんの尽力で改善・更新が進んでいるホームページの更なる充実が必要だが、若い方の利用が多いフェイスブック、ツイッターでの情報発信着手の努力を始めると同時に、年配者対象を中心に引き続き活字での情報発信も必要。③当会の紹介チラシ・冊子の改定発行も必須だ。④大切なことはその内容が如何に市民・消費者に魅力的・分かり易いと受け止められるか。また、⑤どうしたらその一人一人の手に渡るのが鍵になる。と議論されました。総会の場ではその一端の紹介を行い賛同も得ました。今後は速やかに実行に移して参りたいと思います。

上記に関連して私事ですが、7 月に背骨を圧迫骨折して入院を経験し、現在もリハビリを続けています。この過程でリハビリ担当の「理学療法士」と話し合いましたが、「患者は高齢者、障がい者が多く、バリアフリーに限定せず、リフォーム全般の需要もある。患者の場合はケアマネさんと一緒に関与する

場合もある。年配者はホームページ(インターネット)と無縁な人が少なく無い」と言われました。

また、リハビリ先に置いてあったチラシを手にとると「地域包括支援センター」が各地にあり、名古屋市では「いきいき支援センター」と言う名称で運営が行われています。このチラシの消費者被害についての欄に「悪質な訪問販売や住宅リフォーム等の被害が増加しています…相談に応じます」と記載されています。名古屋市内では高齢者のあらゆる相談

に 45 か所の「地域包括支援センター」が先ず相談に応じているようです。

これ以外にも、いろんな分野の様々な相談窓口、団体が多数あります。先ず、これらの相談窓口の方に本会の活動内容を知って貰い、紹介チラシを置いてもらえるように出来たらいいと思います。

会員の皆様の知恵、アイデアをお寄せ下さい。

研修旅行 その2 飛騨市古川町と料亭旅館ハツ三館

情報委員長 谷川照雄



古川町の街並み

高山市の北約 17km にある、飛騨市古川町は宮川の流れに沿った山あいの静かな町です。飛騨市は富山県との県境にあります。

50 年も前になりましたか、現在は飛騨市の一部になっていますが、当時の吉城郡河合村(現飛騨市河合町)に雪道を車で写真を撮りに行った時に、古川町は通りましたが、その時は、正直あまり町としての印象は残っていません。私にとって今回古川町を訪れ、町中をゆっくり歩くことができたのはそれ以来です。町は観光客を意識してか、家の佇まいは比較的統一された感じで、古い町並みを印象付けようとするように見えます。観光案内所がいくつか設けられ、観光客も多いのでしょうか。歩いていると所々に祠(ほくら)やお堂があり、地元の人たちの信仰心が伺えます。現在は車社会ですが、家の前の道路には車が駐車しており、せっかくの町並みの景観も損なわれているように見えます。駐車スペースが取れないので、やむを得ないのでしょう。

最近はどこかの有名な観光地を訪れても、アジアの

観光客で溢れていて、うんざりさせられますが、この古川町はまだ比較的落ち着いた散策できます。このままいつまでも静かな町であってほしいと願うばかりです。



料亭旅館「ハツ三館」玄関

宮川の支流である荒木川は古川町の中を流れ、霞橋の南の道路沿いに料亭旅館ハツ三館が建っています。川を挟んで北側には本光寺という立派な寺の本堂がそびえ、宿泊した客室から一望できます。この料亭旅館ハツ三館は、「江戸の末期 越中八尾からこの地に参った三五郎が この地で旅館を始めました。屋号は初代の出身地である八尾の「八」と名前の「三」とってハツ三(やつさん)として宿屋を創業しました。」と当館ホームページにあります。2007年(平成19年)10月2日に、1、ハツ三館本館、2、ハツ三館大広間棟、3、ハツ三館土蔵が、国の登録有形文化財(建造物)に指定されました。またこの旅館は、山本薩夫監督の映画『あゝ野麦峠』に関する紹介文章の中で、「……出演者、美術、照明、カメラマンの皆さんが総勢 70 名、現在の招月楼(当時は 7 部屋)と

光月楼（当時は2部屋）の9部屋と中小の宴会場や現在のロビーでも寝泊りしていただいた記憶があります。当館は2ヶ月間全館休業し、一家を挙げて全面協力しました。」と同じくホームページにあります。

荒木川に面する表玄関は、梁間二間の入母屋作りで、四枚引きの木製玄関戸を開けると、玄関ホールには、「八ツ三館」と書かれた大きな檜の一枚板が目に入ります。古い舟形や花などが飾られ、和風旅館の落ち着いた雰囲気伝わってきます。玄関を上ると、床は畳敷でスリッパは必要ありません。ひと息つける応接室に座ると、抹茶とお菓子が運ばれてきます。室内にはさりげなく、古い箆笥や工芸品、掛

軸、照明器具等が置かれ、照明は仄暗く、床の間の光と蔭を眺めていると、谷崎潤一郎著「陰翳礼讃」の世界そのものです。さらに宿泊室に向かうと、廊下には真っ赤な壁をくり抜き、一輪挿しの花を飾り、エレベーターの内部にまで畳が敷き詰めてあります。ただ畳に物をこぼしたりすると、足がべとつきます。エレベーターの中まで畳は必要ないと思いました。

一泊二日の旅でしたが、このような立派な旅館に宿泊できる機会は、そうそうないのでとてもゆったりと寛ぐことができ、幸せな気分させていただきました。

皆様、次回の旅もよろしく願いいたします。

■相談委員会 8/20 18:00～19:00

■研修会 8/20 19:00～20:00

「あなたの知らない畳」～最近の建築現場の現場監督さんや職人さんは畳の事を知らない～

講師：(株)菱源畳店（昭和区） 菱田 豊

■役員会 8/22 18:30～19:30

理事会・通常総会資料について、15期事業および収支決算・16期事業計画および収支計画の協議。会費未納者についての確認。終了後に暑気払い。

■木造技術研究会 8/22 19:00～20:00

「ヤマベの耐震改修」読み合わせ。

■三役会 9/5 18:00～19:30

理事会・通常総会資料について確認。

■理事会 9/12 18:00～19:00

15期事業および収支決算・16期事業計画および収支計画・定款の変更・その他についての議事を承認。

■通常総会 9/12 19:00～19:30

上記の議事について、出席者全員の承認。終了後に懇親会。

